

第 219 回 日本経営倫理学会・理念哲学研究部会・例会の議事録

部会長 村山元理

日時 2017年5月22日(月) 18:00-20:00 日本経営道協会・企業家ミュージアム

場所 日本経営道協会・企業家ミュージアム

参加者： 宇佐神、佐藤陽、古山、山本、辻井、市川、望月、緒賀、村山 9名

欠席連絡：新川、長塚、 宇田・小野瀬

議題 ・『21世紀の経営精神』の題名について、経営精神か経営倫理、経営の在り方にするかで、30分以上の議論あり。経営精神だと一本の幹が含意され、言行一致を求める責任感が求められる。そのため実践性が求められるという有力な見解が出される。経営倫理だと客観的な表現で、規範性が弱く、訴求力が弱い。それに対して、否、規範性が求められても、受け取る側の主体性に関わるから、経営倫理で十分良いという反論もある。また仏教側からは宗教倫理の立場により、宗旨による違いがある。和辻には『日本精神史』を利用した。倫理は井上哲次郎が作った日本製の漢語。台湾人には論理と混同される。倫とは短冊、集団の中でのルールを意味する。諸橋漢和辞典で調べるべき。などの議論が続く。

目次に関連して、以下のことが提案された。

辻井さんは懐徳堂、石門心学で別々にペーパーを作ることに決定。

古山さんは海外のカルテルに関する文化の差異について深める。

望月さんは、働く女性、子育ての視点から。

- ・辻氏の修正された石門心学に関するペーパーについて議論は出されず、次回へ。
- ・企業家殿堂の選定条件、村山案の検討もなく、次回へ。佐藤さんより資料準備あり。次回へ。

緒賀正浩「教育勅語と近代日本(仮)」の発表：8枚のペーパーに基づき、教育史の視点から公平に勅語の制定の背景、制定後の教条主義的な活用の問題点、戦後の廃止に到るまでの経緯が政治史的に解説・説明された。勅語の内容に関する解釈について議論が多く、国定のテキストが実はない。勅語に基づく修身教育も時代に応じて変遷した。政治闘争にも利用されるなど曖昧さを残している。

*制度史的な解説だけでなく、井深大など経営者が受容する際の論点は何か、日本人が歴史的に受け継いだ価値観との関連で、勅語の受容の有り方を批判者の論点と対照させながらも、論じて欲しいと思う。

今後の予定の確認 毎月第4月曜日、(8月以降変更有り)

6月26日(月) 18:00~20:00

7月24日(月) 18:00~20:00

以上